

日本海・金沢平野・

河北潟を望む

古墳探訪マップ。



石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会

【目次】

- 1. 古墳時代とは
- 2. 北加賀エリア(石川中央都市圏)の主要古墳の変遷図
- 3. 金沢市西南部エリア
- 4. 金沢市南部エリア
- 5. 金沢市西部エリア
- 6. 金沢市北東部エリア1
- 7・8. 北加賀(石川中央都市圏)の古墳分布図
- 9. 金沢市北東部エリア2
- 10. 白山市北部エリア
- 11. 野々市市北部エリア
- 12. 白山市東部エリア、野々市市南部エリア
- 13. 津幡町エリア
- 14. かほく市エリア、内灘町エリア

※表紙の金沢市上空からかほく市方面を望む

※表紙のイラストは上段が御経塚シンデン古墳群 ST01・05(野々市市)、中段は横江古屋敷遺跡 SZ00(白山市)、下段の左は神谷内12号古墳、右は長坂二子塚古墳を示す。

※本文中の古墳名の前の丸数字は7・8北加賀の古墳分布図の番号に一致する。

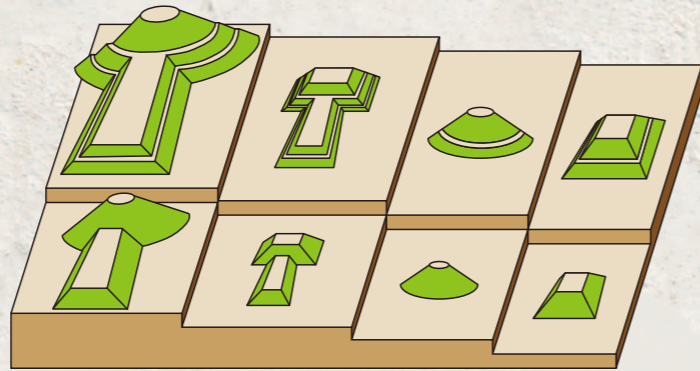
1. 古墳時代とは 古墳の造られた時代

3世紀中葉に畿内では大王を中心にしたヤマト王権が誕生し、各地に有力者のお墓である「古墳」が築かれました。以降、前方後円墳が造られなくなる6世紀後葉まで、約350年間に九州から東北南部にかけて約10万基を超えるとも言われる数の古墳が造り続けられました。時代を象徴するものが古墳とされたことで古墳時代と呼ばれています。石川県にも

約3,100基の古墳が発見されており、石川中央都市圏域内には約390基の古墳があります。

古墳の形には前方後円墳や前方後方墳、円墳や方墳など様々な形が存在します。前方後円墳を最上位として、古墳の形は身分の上下を、規模は権力の大きさが表されている考えられています。

古墳は弥生時代にあった方形や円形の墓への通路が前方部として拡大し、前方後円墳や前方後方墳が誕生したと考えられています。また、古墳は有力者のお墓と考えられていますが、この場所で有力者のために葬送儀礼を行う場にもなりました。



前方後円墳 前方後方墳 円墳 方墳
古墳の形と規模の相関図

北加賀エリア(石川中央都市圏)の古墳時代

古墳時代前期には金沢平野や金沢北東部丘陵部、河北潟沿岸部の各所で古墳群の築造がはじまり、それぞれの地域にはその一帯を治める勢力が存在していたと考えられます。これらの地域では競うように古墳が築造されていきますが、規模は10～30mの中・小規模の前方後方墳(後円墳)を中心とし、方墳を従えて古墳群を形成しました。

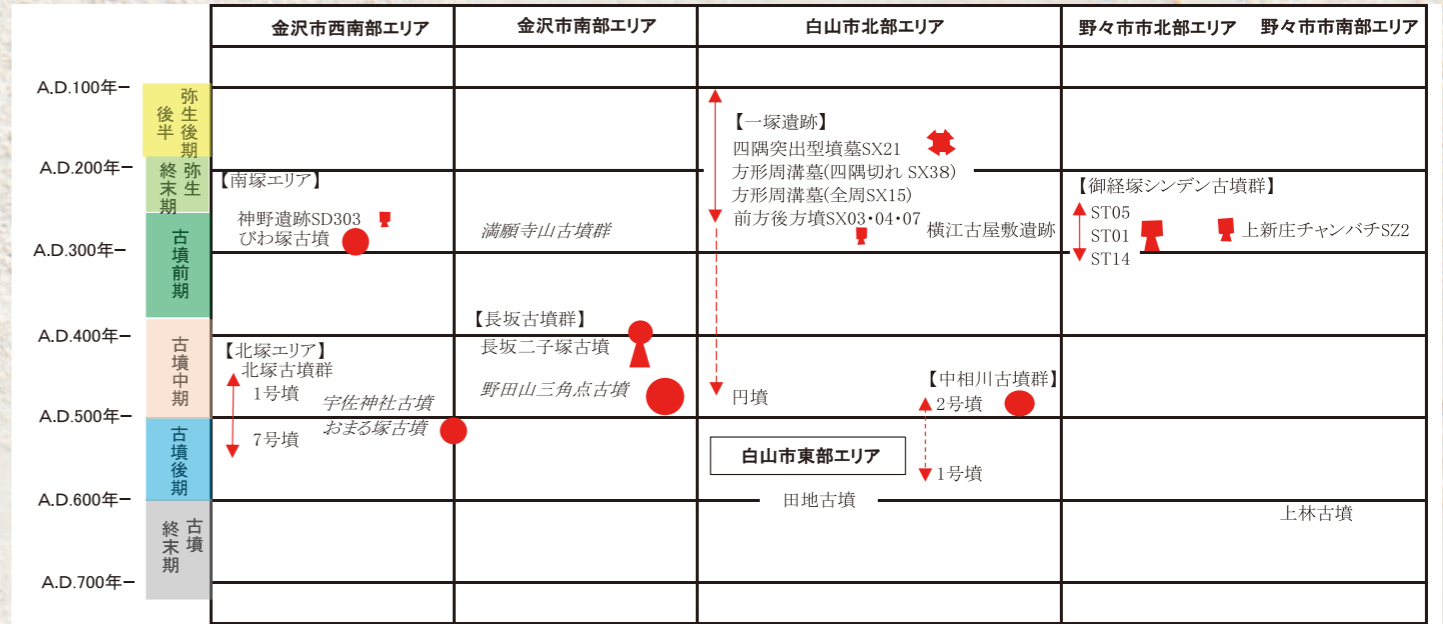
中期になると犀川流域の丘陵部に全長約50mの前方後円墳の長坂二子塚古墳が造られ、ここに初めて金沢平野を治める勢力が存在したことが判ります。

後期になると、金沢北東部の森本地区に全長約70mと推定される前方後円墳の吉原親王塚が造られ、これ以降この地区に勢力の中心が移り、丘陵斜面には横穴墓が数多く造られます。

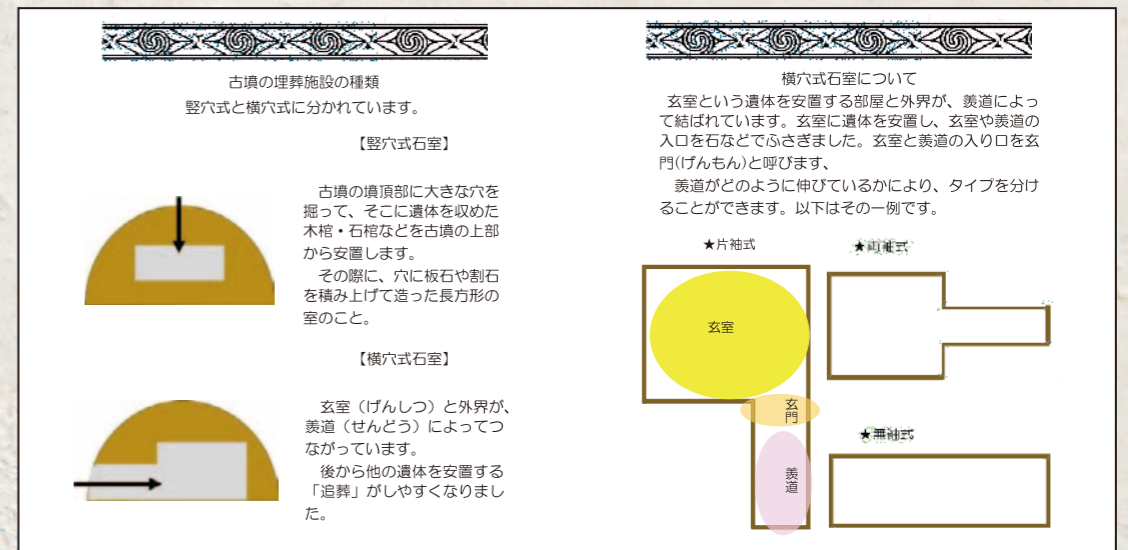
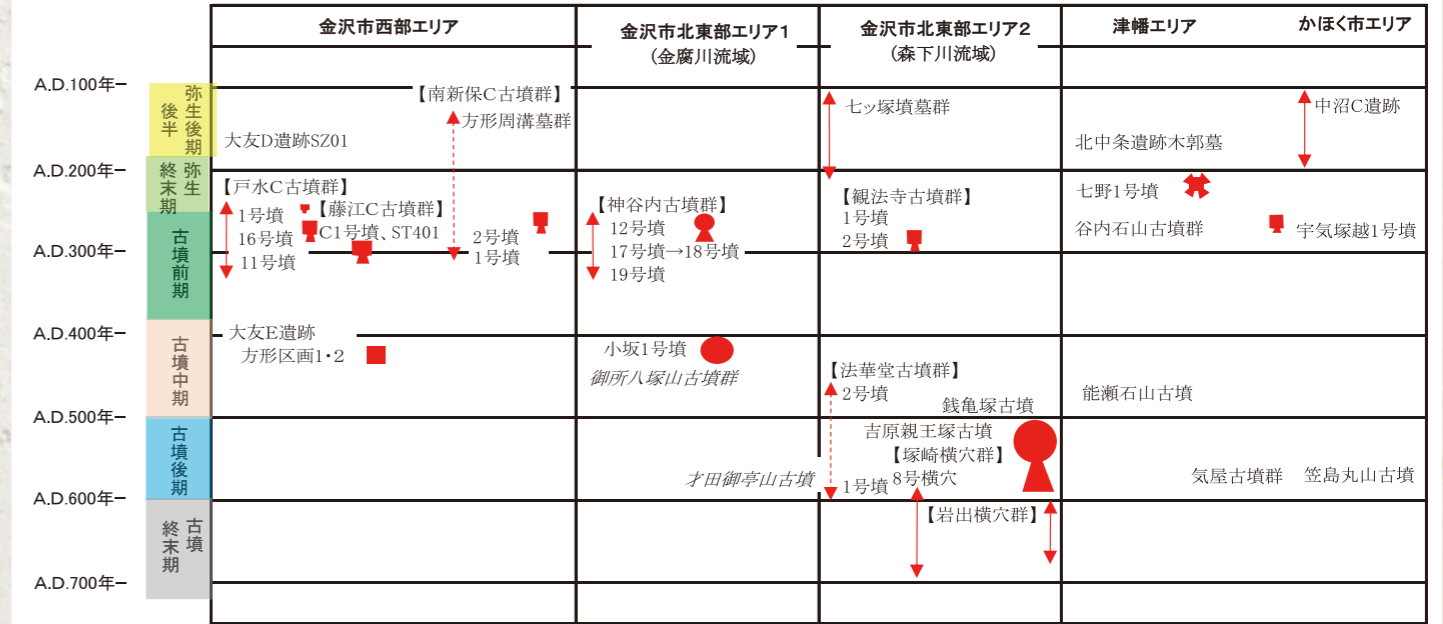
一方、手取川流域では7世紀になって扇状地の開発に関わった勢力が古墳を造りはじめます。近年、野々市市の南部で古墳時代前期の前方後方墳が発見され、この地域にも早くから有力者がいたことが判りました。

また、北加賀地区では、弥生時代に盛んであった玉作りが、古墳時代前期には有力者を飾るシンボルとなる石製宝器(腕飾り、玉類)を大規模に製作する集落が金沢平野や手取川扇状地下流域で出現します。これらの製品は前方後円墳の副葬品として各地にもたらされました。なお、本書では古墳時代の年代観は、3世紀中葉から4世紀までを前期、5世紀代を中期、6世紀代を後期、7世紀代を終末期として説明します。

2. 北加賀エリア(石川中央都市圏)の主要古墳の変遷



※斜字体の古墳は推定、出土品の情報が無いもの



※参考文献 石川県立歴史博物館「加賀・能登 王墓の世界」2016年、石川考古学研究会「北加賀地域古墳群分布調査」『石川考古学研究会々誌第22号』1979年、加賀立国1200年遺跡魅力発信委員会『南加賀古墳探訪マップ』2020年、金沢市『金沢市史 資料編』1999年、金沢市『金沢市史 通史編』2004年

3. 金沢市西南部エリア ~金沢平野部に残る貴重な古墳群~

金沢市西南部エリアには、平野部に残された数少ない古墳があり、北塚古墳群は18基の円墳からなります。そのうち16基は墳丘が削られています。おまる塚古墳、宇佐神社古墳は現在も墳丘が残されています。これまでの調査の結果、5世紀後半から6世紀前半の古墳群と考えられています。また、北塚古墳群から南東約600m離れた地点にはびわ塚があります。この古墳は前期の円墳とされています。近年、この古墳の近くで調査された神野遺跡からは古墳時代初頭の前方後方墳が発見されています。

87 おまる塚 (市史跡)

金沢市北塚町 152
Map: D - 2



おまる塚全景

おまる塚は古墳時代中期の古墳です。直径約22m、高さ5mの円墳。墳丘が削られており、形は変形しています。規模では南東にあります宇佐神社古墳に次いで大きい。

86 宇佐神社古墳

金沢市北塚町
Map: D - 2



宇佐神社古墳全景

宇佐神社古墳は古墳時代の中期の古墳です。直径20~30m、高さ3.5mの円墳。本古墳群では最大規模をほこります。前方後円墳ではないかとする説があります。

88 びわ塚 (市史跡)

金沢市南塚町 118
Map: D - 2



びわ塚全景

びわ塚は古墳時代前期の古墳。直径20m、高さ1.5mの非常に低平な円墳です。おまる塚古墳と同様に表面は削られています。古墳の周溝からは壺が1点出土しています。南西に約130mには前方後方墳が発見された神野遺跡があります。

89 神野遺跡 SD303

金沢市神野町
Map: D - 2



前方後方墳図

神野遺跡SD303は発掘調査で確認された古墳時代前期初頭の古墳。全長約21m、最大幅15mの前方後方墳です。前方部が開口する特徴をもっています。周溝からは動物形木製品が2点出土しています。



動物形木製品



金沢市西南部エリア古墳詳細地図

金沢市埋蔵文化財収蔵庫

金沢市新保本5丁目48

076-240-2371

9:30 ~ 16:30

(入館は16:30まで)

料金：無料

P：3台

休館：月曜日(祝日の翌日)、年末年始

国史跡チカモリ遺跡公園に隣接する施設。びわ塚古墳や岩出横穴群から出土した遺物や石製腕輪製品を展示しています。



Google マップ

4. 金沢市南部エリア ~金沢平野を最初に治めた王の墓~

金沢市南部の野田山丘陵や富樫丘陵には数多くの古墳が分布します。前者では古墳時代中期初頭から前葉にかけて5基の古墳が知られています。特に長坂二子塚古墳は全長約50mの大型前方後円墳で、金沢平野をも治めた勢力の古墳と考えられています。また、この古墳のさらに山手には野田山三角点古墳があり、同時期の古墳とされています。また、富樫丘陵には、弥生時代終末期から古墳時代前期初頭頃の満願寺山古墳群があります。

91 長坂古墳群

金沢市長坂台
Map: D - 3

金沢平野を一望する標高約66mの緩斜面に5基の古墳が分布していました。残念ながら現在その姿を見ることはできません。中でも長坂二子塚古墳は古墳時代の中期初頭に造られた古墳です。全長50mで、後円部には造り出しがあったと報告されています。周囲には北加賀地域では唯一の円筒埴輪や朝顔形埴輪が確認されています。副葬品には珍しい鉄鍬形の銅鍬、鉄剣、勾玉・管玉などがあります。



円筒埴輪
(石川県立歴史博物館提供)



勾玉
(石川県立歴史博物館提供)

93 野田山三角点古墳

金沢市山科町
Map: D - 3



Google マップ

野田山三角点古墳は野田山丘陵の最高所に位置する単独墳です。規模は直径約40m、高さ約1.5~3.5mの円墳。長坂二子塚古墳よりも高所に位置しています。※古墳の見学は可能ですが、民地にあるため道路からお願いします。



野田山三角点古墳全景

94 満願寺山古墳群

金沢市窪町
Map: D - 3



Google マップ

満願寺山古墳群は標高176mの通称満願寺山の頂上に位置する3基の方墳からなる古墳群です。高所に位置する1号墳と2号墳をあわせて前方後方墳とみる説もあります。そうすると全長23m、高さ1.5mの規模をもちます。長坂二子塚古墳と同様に墳頂からの眺望はすばらしい。



1・2号墳全景 (満願寺古墳群)



金沢市南部エリア古墳詳細地図 ※破線内の古墳は全て消滅

5. 金沢市西部エリア ~古墳時代前期の前方後方墳と玉作り~

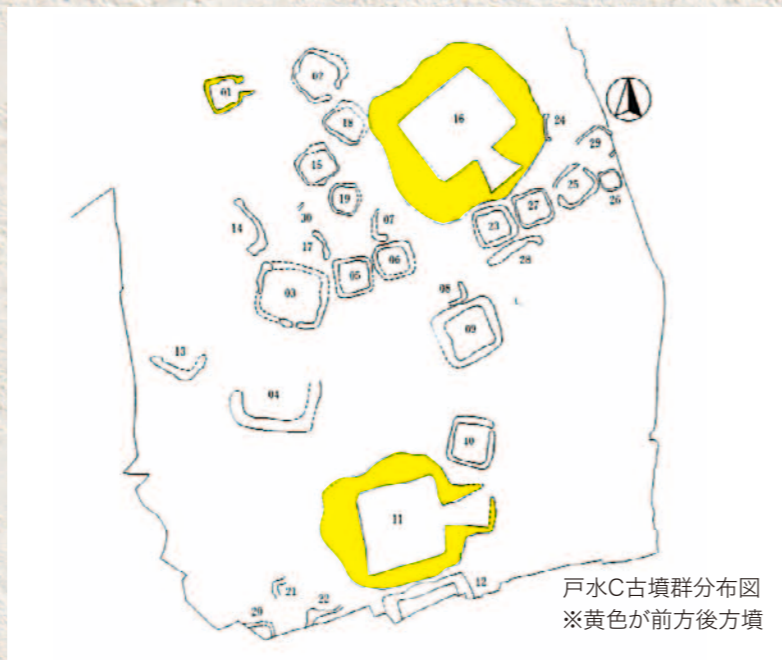
金沢市西部エリアは河北潟の入口に当たる大野川左岸にあり、近年、発掘調査が盛んに行われた結果、墳丘は失われていますが数多くの古墳群が発見されています。海側から戸水C古墳群、藤江C古墳群、大友E古墳群、南新保C古墳群などがあります。いずれも古墳時代前期前半期の前方後方墳を核にして周囲には方墳を従えた古墳群を形成しています。一方、集落遺跡では同時期に有力者を飾るシンボルとなる石製宝器(腕飾り、玉類)を大規模に製作する集落が出現します。

79 戸水C古墳群 金沢市戸水町 Map: C-2

戸水C古墳群は大野川左岸に最も近接し、30基余りの古墳が発見されています。全て墳丘は失われ、周溝のみが確認されています。4基の前方後方墳(全長7.8m~23m)と方墳(10m以下)で古墳群は形成されており、古墳時代初頭から前期にかけて3世代以上にわたり古墳が造られました。



ST11((公財)石川県埋蔵文化財センター提供)



戸水C古墳群分布図
※黄色が前方後方墳

82 藤江C古墳群 金沢市藤江町 Map: C-2

藤江C古墳群は前方後方墳2基(全長12m、19.8m)が確認されています。古墳時代前期の集落に隣接して同時期の古墳が発見されており、ムラの有力者の墓と考えられます。



ST401((公財)石川県埋蔵文化財センター提供)

81 南新保C古墳群 金沢市藤江町 Map: C-2

南新保C古墳群は弥生時代後期後半から終末期にかけて方形周溝墓が造り続けられ、古墳時代前期には前方後方墳1基と方墳で古墳群が形成されています。弥生時代から古墳時代へと転換する時期に墓域を形成する遺跡として注目されています。



1号墳((公財)石川県埋蔵文化財センター提供)

㉓-㉔ 金沢市西部地区の玉作遺跡群

北陸では弥生時代の集落で管玉・勾玉などの玉生産が盛んに行われていましたが、古墳時代になると特定の集落に集中して生産するようになります。北加賀では金沢市西部エリア、白山市北部エリアで、いずれも海岸部や河川に近い交通の便利な地に分布します。玉生産に必要な原材料は金沢市の北東部の丘陵で産出し、これらの地域に運ばれました。主に生産されたのは管玉で、他に古墳時代に誕生した石製腕飾類があります。遺跡としては畝田・寺中遺跡、大友D遺跡、藤江B遺跡、出雲いさまた遺跡などがあり、隣接する遺跡では前方後方墳を中心とする古墳群が形成されます。



玉関係出土品(畝田・寺中遺跡)

6. 金沢市北東部エリア 1 ~北加賀最古の前方後円墳・神谷内古墳群~

金沢市北東部エリアでは北加賀地域でも数多くの古墳が分布します。ここでは南半エリア(金腐川見下ろす丘陵)をご紹介します。神谷内古墳群、小坂古墳群、御所八塚山古墳群、法光寺古墳群、野間神社裏古墳群があります。時期は古墳時代前期から中期にかけての古墳群です。発掘調査により内容がわかる古墳には神谷内古墳群、小坂古墳群があります。前者は北加賀最古の古墳時代前期の前方後円墳が、後者は古墳時代中期の円墳が発見されました。

66 神谷内古墳群 金沢市神谷内町 Map: C-3

神谷内古墳群は丘陵から延びる標高30~70mの3つの尾根上に約20基の古墳が分布しています。古墳群は前方後円墳と方墳、円墳で構成されています。近年調査されたC支群では3基の古墳から豊富な副葬品が出土しています。12号墳(全長27.5mの前方後円墳)からは銅鏡・鉄斧・刀子・管玉が、17号墳(一辺約12mの方墳)からは鉄刀・ヤリガンナ・鉄鏃・勾玉・管玉が、18号墳(一辺約5.5mの方墳)からは珠文鏡・管玉がそれぞれ出土しています。尾根の最高所にある12号墳が最初に、次いで17号墳、そして18号墳が造られました。12号墳の形は変形していますが、金沢平野で最古の前方後円墳とされています。



◀古墳全景(左から18・12・17号墳)



12号墳出土土器



副葬品(左:12号墳、右18号墳)



副葬品(17号墳)

67 小坂古墳群 金沢市小坂町 Map: C-3

小坂古墳群は丘陵から延びる3つの尾根上に14基の古墳が分布しています。2つの尾根は円墳、一つは方墳のみで古墳群が形成されています。調査された1号墳は23x25mの円墳で、尾根の最高所にあります。古墳からは鉄剣・鉄鏃・石製紡錘車・鉄斧・鉾状鉄器・刀子等が出土しています。古墳の時期は5世紀前葉とされています。古墳群は古墳時代前期に方墳から始まり、中期に円墳を中心とする古墳群となります。



小坂1号墳出土
(石川県立歴史博物館提供)

73 御所八塚山古墳群 金沢市御所町 Map: D-3

御所八塚山古墳群はこの地区では南に位置する古墳群です。標高100mの尾根上に4基の方墳(一辺15~27m)と5基の円墳(直径14~24m)で構成されています。金沢大学研究会と同大学考古学研究室により測量調査と試掘調査が実施されています。なお、4・5号墳を一つの墳丘とみて前方後円墳とする説もあります。



Google マップ

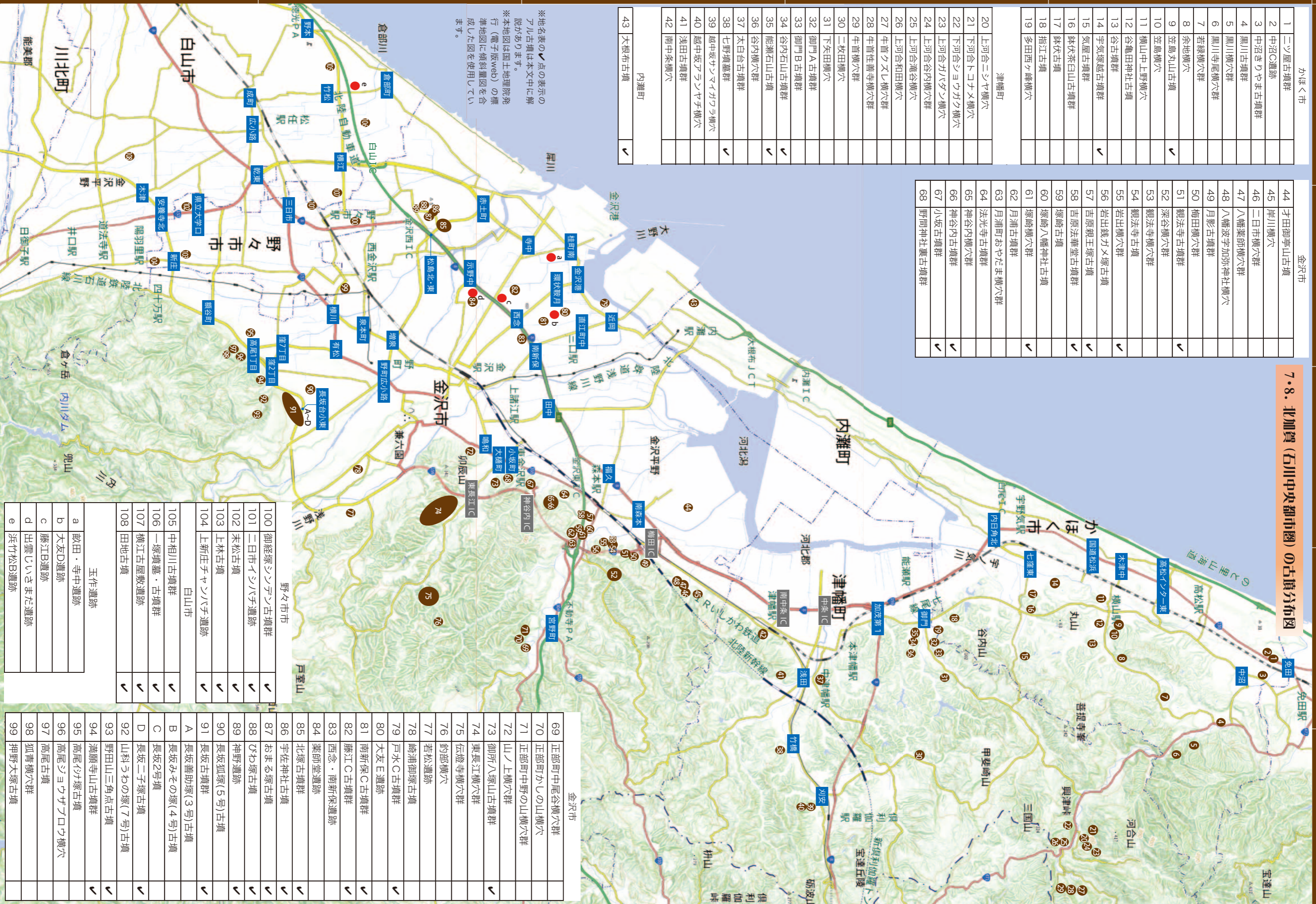


金沢市北東部エリア 1 古墳詳細地図



御所八塚山 2号墳
(金沢大学考古学研究室提供)

7・8. 北加賀(石川中央都市圏)の古墳分布図



かほく市	
1	二ツ屋古墳群
2	中沼C遺跡
3	中沼きりやま古墳群
4	黒川古墳群
5	黒川横穴群
6	黒川寺尾横穴群
7	若穂横穴群
8	余地横穴
9	空島丸山古墳
10	空島横穴
11	横山中上野横穴
12	谷亀田神社古墳
13	谷古墳群
14	宇気塚越古墳群
15	気屋古墳群
16	鉢伏茶臼山古墳群
17	鉢伏古墳
18	指江古墳
19	多田西ヶ降横穴

金沢市	
44	才田御亭山古墳
45	岸川横穴
46	二日市横穴群
47	八幡薬師横穴群
48	八幡波字加弥神社横穴
49	月影古墳群
50	梅田横穴群
51	観法寺古墳群
52	深谷横穴群
53	観法寺横穴群
54	観法寺古墳
55	岩出横穴群
56	岩出銭刀又塚古墳
57	吉原親王塚古墳
58	吉原法華堂古墳群
59	塚崎古墳
60	塚崎八幡神社古墳
61	塚崎横穴群
62	月浦古墳群
63	月浦町おやだま横穴群
64	法光寺古墳群
65	神谷内横穴群
66	神谷内古墳群
67	小坂古墳群
68	野間神社裏古墳群

津幡町	
20	上河合ニシヤ横穴
21	下河合トコナム横穴
22	下河合ショウカク横穴
23	上河合カバタン横穴
24	上河合谷内横穴群
25	上河合滝谷横穴
26	上河合和田横穴
27	牛首クズシ横穴群
28	牛首性善寺横穴群
29	牛首横穴群
30	二枚田横穴
31	下矢田横穴
32	御門A古墳群
33	御門B古墳群
34	谷内石山古墳群
35	能瀬石山古墳
36	谷内横穴群
37	太白台古墳群
38	七野墳墓群
39	越中坂ソウマイイガラウ横穴
40	越中坂アラソヤチ横穴
41	浅田古墳群
42	南中条横穴
43	大根布古墳

※地名表の▼点の表示のアル古墳は本文中に解説があります。
※本地区は国土地理院発行(電子版web)の標準地図に傾斜量図を合成した図を使用しています。

野々市市	
100	御経塚ソウテン古墳群
101	二日市イシバチ遺跡
102	末松古墳
103	上林古墳
104	上新庄チャンバチ遺跡
白山市	
105	中相川古墳群
106	一塚墳墓・古墳群
107	横江古屋敷遺跡
108	田地古墳
玉作遺跡	
a	畷田・寺中遺跡
b	大友D遺跡
c	藤江B遺跡
d	出雲じいさま遺跡
e	浜竹松B遺跡

金沢市	
69	正部町中尾谷横穴群
70	正部町かしの山横穴
71	正部町中野の山横穴群
72	山ノ上横穴群
73	御所八塚山古墳群
74	東長江横穴群
75	佐燈寺横穴群
76	釣部横穴
77	若松遺跡
78	崎浦御塚古墳
79	戸水C古墳群
80	大友E遺跡
81	南新保C古墳群
82	藤江C古墳群
83	西念・南新保遺跡
84	薬師堂遺跡
85	北塚古墳群
86	宇佐神社古墳
87	おまる塚古墳
88	ひわ塚古墳
89	神野遺跡
90	長坂狐塚(5号)古墳
91	長坂古墳群
A	長坂善助塚(3号)古墳
B	長坂みその塚(4号)古墳
C	長坂2号墳
D	長坂二子塚古墳
92	山科うわの塚(7号)古墳
93	野田山三角点古墳
94	滝願寺山古墳群
95	高尾のイ塚古墳
96	高尾シヨウザワロウ横穴
97	高尾古墳
98	狐青横穴群
99	押野大塚古墳

9. 金沢市北東部エリア2 ~古墳時代後期の横穴墓~

金沢市北東部北部エリア(森下川を見下ろす地域)にも数多くの古墳が分布します。吉原親王塚・法華堂古墳群、観法寺古墳群、岩出古墳群、才田御亭山古墳があります。また、丘陵斜面に横穴を作る横穴墓群(塚崎横穴群、岩出横穴群)があります。このエリアではすでに墳丘は失われていますが、全長約78mと推定されている吉原親王塚が有名です。このエリアに北加賀地域を治める勢力が存在していたことが判ります。



塚崎横穴群全景
(公財)石川県埋蔵文化財センター提供)

61 塚崎横穴群 金沢市塚崎町
Map: C - 3

塚崎横穴群は12基以上の墓が形成する横穴群で、北加賀地区では最も多く調査がされています。墓は平地との比高約30mの斜面に、横穴の開口部の高さで分けると3つのグループの墓が造られています。横穴墓の時期は出土した須恵器の時期から7世紀代に継続して展開していたとされています。

44 才田御亭山古墳

金沢市才田町 Map: C - 3

才田御亭山古墳は森下川下流域、標高2mの河北潟縁辺にある微高地に立地する。直径20m、高さ5mの円墳で、古墳の周囲は墓地造成で削られています。出土品は確認されていませんが、近隣の寺院にこの古墳から出土したと伝わる板石が保管されています。



才田御亭山古墳全景



才田御亭山古墳位置図

51 観法寺古墳群 金沢市観法寺町
Map: C - 4

観法寺古墳群は方墳からなる古墳群で、平野に面するA支群と同尾根の根元にあるB支群の二つがあります。前者は調査され、弥生時代終末期の墳丘墓と古墳時代前期の前方後方墳(全長約20m)が確認されました。この古墳からは二つの埋葬施設が確認され、鉄剣が出土しています。

57 吉原親王塚古墳・**58 吉原法華堂古墳群**

金沢市吉原町 Map: C - 3

吉原親王塚古墳・法華堂古墳群はいずれも墳丘は失われていますが同一の古墳群と考えられます。前者は墳丘規模全長約78mを測る北加賀最大の前方後円墳とされ、埋葬施設は横穴式石室で、直刀が出土したと報告されています。法華堂古墳は2基の円墳からなり、1号墳からは耳飾りや鉄刀が出土しています。時期は1号墳が6世紀末と7世紀、2号墳は5世紀末とされています。このように詳細は不明な点が多い古墳ですが、吉原親王塚古墳は北加賀を支配する有力氏族の古墳で、この地域が中心と考えられています。



金沢市北東部エリア2 古墳詳細地図

55 岩出横穴群

金沢市塚崎町 Map: C - 3

岩出横穴群は10数基以上の墓が形成する横穴群で、時期は出土した須恵器から7世紀代に展開したとされています。また、東海地方に由来する瓶や高杯などが出土しています。なお、横穴墓から出土した人骨のDNA解析から縄文人や弥生人にはなく現代日本人に見られる東アジア人に特有の遺伝的特徴が見つかったことで話題となりました。



副葬品の出土状況(岩出横穴群)



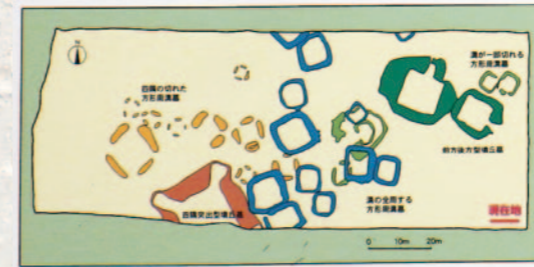
観法寺古墳群(2号墳 前方後方墳)
(公財)石川県埋蔵文化財センター提供)

10. 白山市北部エリア ~古墳時代前期の古墳群と玉作り~

白山市北部エリアでは手取川扇状地の微高地に古墳が分布していたと思われます。明治以降に行われた耕地整理などによって、わずかに残っていた古墳の墳丘は削平されてしまい、今では墳丘の残っている古墳はありません。しかし、発掘調査により古墳の周りに巡らされた周溝などが発見されています。一塚古墳群では前方後方墳や円墳が、横江古屋敷遺跡では前方後方墳や方墳が発見されました。また浜竹松B遺跡では、古墳への埋葬者と一緒に副葬品としておさめられる腕飾類などの玉作りが盛んに行われていました。



2基の前方後方墳(一塚古墳群)



旭遺跡群一塚地区の墳墓分布図

◎ 浜竹松B遺跡

白山市竹松町 Map: D - 1

遺跡は現在の海岸線より直線距離にて1.2km内陸の手取川扇状地扇端部(標高5m)に位置しています。古墳時代前期から中期にかけての竪穴建物17棟、周溝を有する平地式建物1棟などを確認しました。古墳時代前期末の竪穴建物や包含層からは緑色凝灰岩製の管玉・腕飾未成品や石核、剥片が多く出土しており、当遺跡において腕飾や玉製作を行っていたことが窺えます。腕飾未成品には石釧と車輪石があり、剥貫円盤が3点出土しています。腕飾未成品43点や管玉未成品145点の他に、剥片が約800点出土しており、こうした資料から腕飾及び管玉の製作工程が復元できます。



石製腕飾類未製品

106 一塚墳墓・古墳群 白山市旭丘2丁目 Map: D - 1

一塚古墳群での墳墓の造営は、弥生時代終末期の方形周溝墓や四隅突出型墳墓の築造によってはじまります。古墳時代初頭になると、それまでの四隅の切れた方形周溝墓から溝が全周するものへと変化します。この頃に前方後方墳が築造され、これを核として取り巻くように2基一対連接を基本とした方形周溝墓(方墳)がつくられるようになります。その後しばらく、墳墓の造営は停止されますが古墳中期になると突如大型の円墳が1基のみ築造され、これを最後に古墳は造営されなくなります。

105 中相川古墳群 白山市相川町 Map: D - 1

中相川古墳群は手取川扇状地扇端部の相川町にあったと伝えられています。相河加茂神社移設の際に削平されたようで、元々は境内に2基、東側に1基あったと言われています。いずれも詳細な墳形・規模・内部構造は分かっていませんが、直径10~15m程度の円墳であったのではないかと考えられています。出土した須恵器から、5世紀末から6世紀初頭の古墳であったと考えられています。

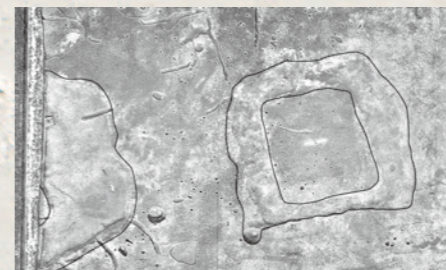


相河加茂神社

107 横江古屋敷遺跡

白山市横江町 Map: D - 2

横江古屋敷遺跡は、弥生時代中期後半から集落が形成され、後期後半から終末期にかけて最盛期を迎えます。発掘調査によって多くの竪穴建物や平地式建物が確認されています。しかし古墳時代初頭になると集落は終息し、かわりに古墳が造営されるようになります。発掘調査によって見つかったのは、1辺20m程度の方墳と前方後方墳の周溝と考えられる幅の広い溝です。どちらの古墳の周溝においても、ごく僅かな量の遺物しか出土しておらず、築造の時期を示す遺物はありませんでした。近年の調査によって、2基の前方後方墳の周溝と思われる溝が新たに確認されています。



古墳全景

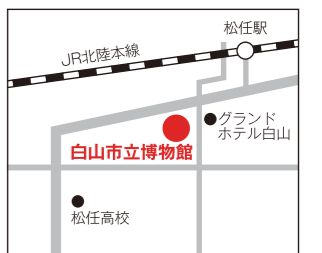
白山市立博物館
白山市西新町 168 - 1

076-275-8922
9:00 ~ 17:00
(入館は16:30まで)
料金：一般 200円
高校生 100円
中学生以下無料



Google マップ

P：あり
休館：月曜日(祝日の場合翌日)、
年末年始
白山市の歴史・文化を学べる総合博物館。一塚遺跡、田地古墳の出土品を展示しています。



11. 野々市市北部エリア ~古墳時代前期の前方後方墳~

3世紀中頃に畿内で誕生したヤマト政権の確立は、巨大な墳墓を築くことで権威を示す時代の幕開けとなります。以後、全国各地に有力者のお墓である「古墳」が築かれるようになり、野々市市北部エリアもそれに従うように古墳の造営がはじまりました。古墳群には、集落の首長墓である前方後方墳と、それに付属する方墳が築かれ、これらの造営は集落の終焉まで続きました。



ST01 全景 (前方後方墳)



出土土器

10 二日市イシバチ遺跡

野々市市二日市

Map: D - 2

二日市イシバチ遺跡は3世紀後半から4世紀前半の集落遺跡で、集落から外れたところに古墳群が造営されました。発掘調査で確認された古墳は5基で、全て方墳です。これらの古墳群は現在の範囲よりさらに北側へ広がると推測されます。墳丘と埋葬施設は後世の削平によって失われ、周溝のみが確認されました。墳丘は、一辺約18mと約8mの大小2種類に分かれることがわかっています。溝の中からは、墳丘に供えたと考えられる土師器壺が出土しています。



方墳 (二日市イシバチ遺跡)

100 御経塚シンデン古墳群

野々市市御経塚 Map: D - 2

御経塚シンデン古墳群は、3世紀末から4世紀中頃に造営された古墳群です。前方後方墳4基、方墳11基で構成されており、墳丘と埋葬施設は後世の削平によって失われ、周溝のみが確認されました。古墳群で最初に築造されたと推測される古墳(ST13)は推定全長約44mの前方後方墳で、当古墳群最大のもので、周溝からは、東海や畿内地域の影響を受けた小型祭祀土器や壺、甕などが出土しています。



古墳分布図

野々市市ふるさと歴史館

野々市市御経塚 1丁目 182

076-246-0133

10:00 ~ 16:00

料金: 無料

P: あり

休館: 月曜日(祝日の場合、翌平日)、年末年始
祝日の翌日

野々市市内の各遺跡から出土した縄文時代から江戸時代の出土品を展示。御経塚遺跡の重要文化財を展示するほか、御経塚シンデン古墳群の出土品も展示しています。



Google マップ

12. 白山市東部エリア・野々市市南部エリア~古墳時代後期の横穴式石室~

長い間、白山市東部や野々市市南部のエリアの古墳は7世紀初頭の田地古墳や上林古墳が最古と考えられ、同時に地域の開発も7世紀以降であると考えられてきました。しかし、近年の熱野遺跡や上新庄チャンバチ遺跡の発見によって、当地域もまた野々市市北部エリアと同じく弥生時代には土地の開発が行われ、集落の形成や前方後方墳・方墳の造営が行われていたことがわかってきました。



横穴式石室 (田地古墳)

103 上林古墳

野々市市上林 Map: E - 2

上林古墳は、市内唯一の横穴式石室を主体部とする古墳で、7世紀前半に造られたと推測されます。古墳は後世に削平され、石室の最下段石列のみが残っていました。石室は全長7.9mで、奥壁は失われていましたが、*奥壁裏込石や玄室と羨道の最下段石列と袖石は残っていました。玄室部は長さ4.7m・幅約1.0mで、羨道部は長さ3.2m・幅約0.8m、開口部は幅約1.0mです。副葬品は全て失われており、墳丘規模などは不明です。*石積み背後に積める小石



横穴式石室 (上林古墳)

108 田地古墳 (市史跡)

白山市田地町 37 番地

Map: E - 1



Google マップ

田地古墳は古墳時代後期の古墳です。現在の海岸線より直線距離にて約8.5km内陸の手取川扇状地中央部(標高45m)に位置します。昭和45年、道路迂回工事中に畑の中で偶然発見されました。古墳の墳丘は削平されており消失していました。発掘調査の結果、横穴式石室をもつ古墳であることがわかりました。石室は全長約7mを測り、河原石を積み上げた構造で、棺を納めた玄室と通路である羨道に分かれています。石室からは副葬品と考えられる遺物が出土しました。遺物は玄室内からの出土であり、ハソウ、高杯、平瓶、杯蓋、杯身などの須恵器と金属製品があります。金属製品は刀子と銀製の耳飾りである銀環です。出土した遺物の時期から6世紀末から7世紀初頭の古墳であることがわかりました。

104 上新庄チャンバチ遺跡

野々市市新庄 Map: E - 2

上新庄チャンバチ遺跡は3世紀後半から4世紀前半の集落跡で、遺跡の縁辺部に方墳1基、前方後方墳1基が造営されました。方墳の墳丘は一辺9.6m前後で、前方後方墳の墳丘は墳長18.4m以上、墓域は南北にのびる微高地に広がると推測されます。墳丘と埋葬施設は後世の削平によって失われ、周溝のみが確認されました。遺物は出土していませんが、当遺跡に隣接する集落(白山市熱野遺跡)の墓域にあたるかと考えられます。



前方後方墳 (上新庄チャンバチ遺跡)

102 末松古墳

野々市市末松

Map: E - 2



Google マップ

末松古墳は、末松大兄八幡神社の境内にある古墳です。墳丘の大半が神社の参道や境内によって壊されており、埋葬施設は失われています。墳丘規模や形は不明ですが、現在確認できる参道の北側と南側にある土の高まりが墳丘の一部とされており、古墳の大きさは約20m前後であったと推測されます。神社から約300m東にある末松遺跡からは、古墳の周溝と考えられる直径約25mの溝が複数認められています。このことから、周辺にも同規模の古墳があった可能性があります。



末松古墳全景



田地古墳・末松古墳周辺地図

13. 津幡町エリア ~交通の要衝の古墳群~

津幡町内での古墳時代遺跡の密度は薄く、現存する古墳は太白白古墳群や御門古墳群など2~4基の小さなまとまりが点在する他、横穴墓が数か所確認されているに過ぎません。しかしながら、古墳時代直前の弥生時代後期後半~終末には七野墳墓群や東荒屋ナカサイ遺跡などで墳丘墓が営まれ、鉄刀や勾玉・ガラス玉などの副葬品もみられることから弥生終末期には有力者の存在がみてとれます。古墳時代に入り地域勢力の再編がなされた可能性があります。

古墳時代後期になると、前述の横穴墓が谷筋の交通路に面した場所に出現しはじめます。能登・加賀・越中の分かれ道というべき交通の要衝として津幡町の性格がすでに現れはじめているのかもしれない。



七野墳墓群全景



能瀬石山古墳全景



谷内石山1号墳全景



谷内石山古墳周辺地図

38 七野墳墓群 (町史跡)

津幡町字七野 71 番 8 Map: B - 5

七野墳墓群は、平野を望む丘陵上に位置する弥生時代後期後半(約1800年前)の墳墓群です。二号墳は四隅が飛び出た四角い形をしており「四隅突出墓」と呼ばれ、山陰地方に多くみられるお墓です。北陸地方と山陰地方の関係を考えるうえで重要な遺跡です。副葬品として勾玉などの玉類、環のついた刀子などが出土しており、有力者の墓とみられます。公園には3基の墓が保存されています。

※県道215号を「竹橋」交差点で富山県方向で右折し、「倶利伽羅不動寺 西之坊鳳凰殿」の向いにあり。



Google マップ

35 能瀬石山古墳

津幡町能瀬 Map: B - 4

能瀬石山古墳は古墳時代後期の円墳で、能瀬川の河岸段丘、谷内石山古墳群の東南約150mに位置します。発見時にはすでに墳丘は削られてなくなりましたが、副葬品として鉄鏃や鉄刀・勾玉がみついています。出土土器が伝わっていないため詳細な時期は不明ですが、6世紀初頭頃の古墳と考えられています。

34 谷内石山古墳群

津幡町谷内町 Map: B - 4

谷内石山古墳群は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての墳墓群です。3基からなり尾根の一番高いところに位置します。墳形はくずれた円形・方形であり、大きさは10~20mほどです。古墳時代初頭と思われる1号墳からは鉄刀がみついています。古墳は開発のため、現存していません。

14. かほく市エリア ~古墳時代前期の前方後方墳~

かほく市内では、古墳や古墳群が12カ所、横穴墓や横穴群が7カ所確認されています。古墳の分布を河川や平地を見下ろす小高い丘陵上に造られています。日本海側では、内灘町から砂丘が続き、遺跡が確認されていますが砂が厚く堆積し、遺跡の確認が困難です。まだ見ぬ古墳が砂丘の下に存在しているのかもしれない。

市内の古墳の中でも古墳時代前期の宇気塚越1号墳は、このエリア最初の首長の墓と考えられています。また、明治時代に調査された古墳時代後期の笠島丸山古墳には、横穴式石室があり、須恵器や丸玉、水晶製切子玉が出土したことが伝えられており、当該期の有力者の墓と考えられています。



宇気塚越1号墳



宇気塚越古墳群周辺地図

14 宇気塚越1号墳 (県史跡)

かほく市宇気いの部

Map: A - 4



Google マップ

宇気塚越古墳群の一つで、古墳時代前期(4世紀頃)の前方後方墳です。全長約18m、周囲に周溝を伴っていたことが確認されています。後方部に棺を納めたと見られる土坑を確認し、鉄鏃やガラス製小玉が出土しています。既に消滅しましたが、周囲には円墳3基、方墳1基が確認されています。



笠島丸山古墳がある丘陵

14. 内灘町エリア ~砂丘下の古墳~

内灘町内では、明治時代に大根布海岸の砂丘斜面に露頭した黒色土から勾玉、管玉、白玉などを数多く採集し、その後、6世紀代の須恵器の高杯や「はそう」を採集したことから同海岸に古墳が存在していたのではないかと推定されました。しかしながら現在に至るまで古墳は実際に確認された例はありません。

Map: C - 2



現砂丘下の黒色土の露頭 (1920年代頃)



採集された古墳時代の遺物

津幡ふるさと歴史館

津幡町字清水り 1-1

076-288-2101

9:00 ~ 17:00

(入館は 16:30 まで)

料金：一般 100 円

中学生以下無料

P：あり

休館：月曜日(祝日の場合翌日)、年末年始
津幡町の縄文時代から中世までの出土品を展示。歴史館の前には町史跡、津幡城がある。



Google マップ

内灘町歴史民俗資料館

「風と砂の館」

内灘町宮坂に 455

076-286-1189

10:00 ~ 17:00

(入館は 16:30 まで)

料金：一般 200 円

高校生以下無料

P：10 台

休館：火曜日(祝日の場合翌日)、
年末年始

大根布海岸で採集された古墳時代の遺物を展示。



Google マップ



石川中央都市圏 全体図



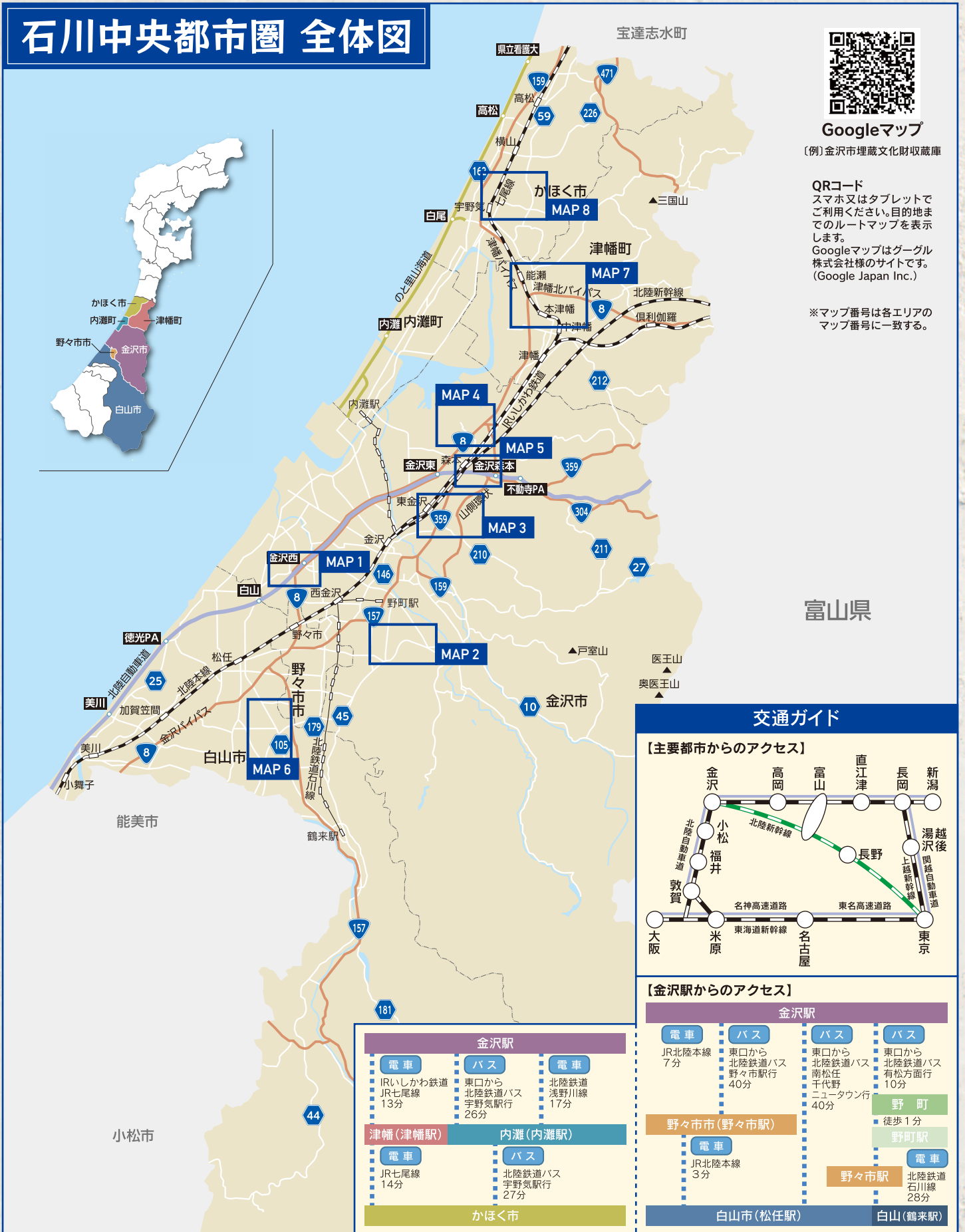
Googleマップ

(例) 金沢市埋蔵文化財収蔵庫

QRコード

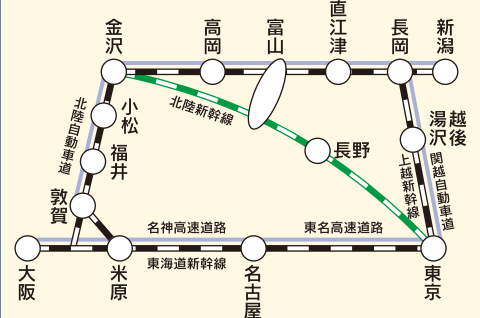
スマホ又はタブレットでご利用ください。目的地までのルートマップを表示します。
GoogleマップはGoogle株式会社のサイトです。(Google Japan Inc.)

※マップ番号は各エリアのマップ番号に一致する。



交通ガイド

【主要都市からのアクセス】



【金沢駅からのアクセス】

金沢駅		
電車	バス	電車
IRいしかわ鉄道 JR七尾線 13分	東口から 北陸鉄道バス 宇野気駅行 26分	北陸鉄道 浅野川線 17分
津幡(津幡駅)		内灘(内灘駅)
電車	バス	
JR七尾線 14分	北陸鉄道バス 宇野気駅行 27分	
かほく市		

金沢駅			
電車	バス	バス	バス
JR北陸本線 7分	東口から 北陸鉄道バス 野々市駅行 40分	東口から 北陸鉄道バス 南松任 千代野 ニュータウン行 40分	東口から 北陸鉄道バス 有松方面行 10分
野々市市(野々市駅)		野々市駅	
電車	バス	電車	
JR北陸本線 3分		JR北陸本線 3分	
白山市(松任駅)		白山(鶴来駅)	

企画展「日本海・金沢平野・河北潟を望む古墳探訪マップ」

※本書は、石川中央都市圏（金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町）が地域資源の魅力向上に向けて圏域内の歴史遺産の保存活用に連携して取り組む事業として作成したものである。

【協力】石川県立歴史博物館、(公財)石川県埋蔵文化財センター

【発行】金沢市文化財保護課【編集】石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会【発行日】令和4年3月31日

【お問い合わせ】金沢市埋蔵文化財センター 金沢市上安原南60番地 TEL 076-269-2451 Fax 076-269-2452